

プログラム A

●オーディオ・ビジュアル・コンサート

「Yadori_avatar」

日時 **2022年8月9日(火)** 限定入場のみ
8月10日(水) 限定入場、ライブ配信、アーカイブ配信
 両日共18:30 開演（開場は30分前）

リアルタイム上演とオンライン配信とによる現代音楽－現代アートとしてのゲームプレイ=上演の新作を中心に構成。宮木朝子の音楽と、ゲーム映像やVR映像などとのコラボレーションの新作他を上演。一晩通じて、視覚-聴覚の邂逅、そのあり方の問い直しを行い、“リアルとヴァーチャルの往来”を表現します。さらに、ドイツからZKMの元客員作曲家・石井紘美、ドレスデン大学電子音楽スタジオ元所長の作曲家ヴィルフリート・イェンチを迎え、ヴィジュアル・ミュージックの上演と映像出演によるミニレクチャーを行います。

・**小阪淳+宮木朝子**
 《Yadori_Scape_Notation》=game映像と楽器奏者のための (2021 委嘱・世界初演)
 サクソフォン: **大石将紀** 映像: **小阪淳** 作曲・ピアノ・コンピュータ: **宮木朝子**

・**馬場ふさこ+宮木朝子**
 《Hidden Garden (VR映像とヴァーチャル・サラウンドver.)》(2021 改定初演)
 映像: **馬場ふさこ** 音楽: **宮木朝子**

・**宮木朝子**《Opera acousma(見ることなしに聴くオペラ)III》(2021 委嘱・世界初演)
 マルチチャンネルアークスマティック作品 installation(*配信時映像)： **千田泰広**

・**宮木朝子+小阪淳**《Echolia-for solo violin, electronics, and video》(2018)
 ヴァイオリン: **林原澄音** エレクトロニクス: **宮木朝子** 映像: **小阪淳**
 メタルヴァイオリン制作: **ニコラス・ハーバート** (https://nicolasherbert.tumblr.com)

-海外招待作曲家- マルチチャンネルによるビジュアルミュージック作品
 ・**Hiroimi ISHII / 石井紘美**《Time Crystals》(2021招待作品・世界初演)
 ・**Wilfried JENTZSCH / ヴィルフリート・イェンチ**
 《The Unknown Planet》(2021招待作品・改定初演)
 ビデオトーク・ミニレクチャー

プログラム B

●ピアノ、エレクトロニクス、映像によるコンサート

「Imaginary Piano-Scape」

日時 **2022年8月11日(木)** 限定入場のみ
8月12日(金) 限定入場、ライブ配信、アーカイブ配信
 両日共18:30 開演（開場は30分前）

両国門天ホールのピアノを活かし、その音響を電子的に拡張してゆく作品をプログラミングしたコンサート。国内外の作曲家への新曲委嘱と共に、若手作曲家を対象とした新曲委嘱・新曲公募を行います。また、委嘱作品の一つとしてAI研究の第一人者・大谷紀子氏の監修の元、AIと人間との共同制作による現代音楽の新作も上演。さらに元GRMの作曲家、現在トゥールーズにて実験的なサウンドパフォーマンス、映像とのコラボレーションで活躍するフランソワ・ドナトを迎え、マルチチャンネルアークスマティック作品の上演と映像出演によるミニレクチャーを行います。

・**顧昊倫**
 《下沈の鯨 ～ピアノとライブ・エレクトロニクスのための～
 ～Sinking Whales for piano and live electronics》(2021 委嘱・世界初演)
 ピانو・エレクトロニクス: **顧昊倫**

・**鈴木悦久**《ピアノの庭遊び -エレクトロニクスとピアノのための-》(2021 委嘱・世界初演)
 ピانو・エレクトロニクス: **鈴木悦久**

・**大谷紀子+宮木朝子**《AI自動作曲とピアノによる新作》(2021 委嘱・世界初演)
 (原曲: J.S.Bach 平均律クラヴィーア曲集第1巻24番曲短調よりプレリュードとフーガ)
 ピانو・エレクトロニクス: **宮木朝子**

・**水野みか子**
 《ピアノリストと仮想ピアノのための「フードチェーン ー 去りゆく時を重ねて」》(2021 委嘱・世界初演)
 ピانو: **小坂紘未** エレクトロニクス: **水野みか子**

・**公募入選作品** **チェ・ウジョン** 《Where is Topophilia》
山口聖斗 《resuscitación》
織田理史 《from an ordinary tone》
キム・スア 《反抗》
イ・スンギュ 《Tonality generated by 60》

-海外招待作曲家-マルチチャンネルによるアークスマティック作品
 ・**François DONATO / フランソワ・ドナト**《We Fight》(2018 招待作品・改定初演)
 ビデオトーク・ミニレクチャー

プログラムA,B共に
 会場内: マルチチャンネルオーディオ環境あるいはアークスモニウムによる上演
 ライブ配信、アーカイブ配信: **バイノーラル**(ヴァーチャルサラウンド)による視聴
 *プログラム内容、参加者等は一部事情により変更する場合があります。

プログラム C

●シンポジウム

「リアルとヴァーチャルの往来－ゲームと芸術表現について」

日時 **2022年8月19日(金)** 限定入場、ライブ配信、アーカイブ配信
 18:30開始（開場は30分前）

本フェスティバルを貫くテーマ、内容について、AI研究、聴覚文化論研究、ゲームオーディオ研究、アートディレクション、現代アートの視点から基調講演とシンポジウムを行います。

基調講演(順不同、五十音順)
 1) **福田貴成**(聴覚文化論)「聴覚メディアにおけるリアルとヴァーチャルの意味」(仮題)
 2) **山上揚平**(音楽学・ゲームオーディオ研究)「デジタルゲームにおける音楽・音響の諸相――表現としてのゲームの新たな可能性に向けて」(仮題)
 3) **小阪淳**(美術家)「“今”に宿るA/バター～図形楽譜の拡張としての偶発的仮想造形 -制作プロセスと映像楽譜について」
シンポジウム登壇者: **大谷紀子、福田貴成、山上揚平、宮木朝子、小阪淳**

Ticket

・**限定入場料金**(税込) **要予約** 各プログラム30~35名
 (今後の社会状況により定員等が変更となる場合がございます)

A,B各プログラム：一般**¥3,000** 門天会員・学生**¥2,500**
Cプログラム：**¥500** (門天会員とA、Bプログラムいずれかの入場あるいは配信チケット購入者は、Cプログラムを無料でご予約できます。)

・定員に達し次第受付を終了します。
 ・予約時にご案内する新型コロナウイルス感染症対策へのご協力をお願いします。

・**限定入場ご予約・お問い合わせ**



両国門天ホール
 メール: ticket@monten.jp
 電話&FAX: 03-6666-9491 (火曜日休館)
 HP: http://www.monten.jp/RAF7R

・**配信チケット料金**(税込)
A,B各プログラム: **¥1,500** **C**プログラム: **無料**
 配信チケット受付: https://monten-live.zaiko.io/
 各プログラム生配信日
Aプログラム： **8月10日(水)**
Bプログラム： **8月12日(金)**
Cプログラム： **8月19日(金)**
 生配信を視聴できない場合でも、**公演日を含めて4日間はアーカイブ配信**を視聴できます。その際、著作権許諾の関係でプログラムの一部が変更されますことをあらかじめご了承ください。

大石将紀 Masanori OISHI (サクソフォン)
 東京藝術大学卒業、同大学大学院修了、渡仏しパリ国立高等音楽院卒業。国内、ヨーロッパ、アジアでの音楽祭出演、リサイタルやマスタークラスの開催、ラジオ、テレビ出演、TVCM録音、(一財)地域創造の支援アーティストとして全国でアウトリーチを展開するなど幅広く活動中。14年「東京現音計画」で第13回佐治敬三賞、20年2枚目のアルバム「SMOKE」が令和元年度文化庁芸術祭優秀賞受賞。現在、大阪音楽大学特任准教授、東京藝術大学、洗足学園音楽大学、エリザベト音楽大学講師。

馬場ふさこ Fusako BABA (映像)
 札幌シティジャズ、ホワイトイルミネーション、東京デザイナーズウィーク等へのフルドーム環境映像の提供のほか、ドイツやカナダ・ロシアなど国内外のフルドーム映像祭で数々の賞を受賞したアート映像作品を手がける。最近では360° VR映像作品も制作。万華鏡や曼荼羅をモチーフとし、美しい色合いとシンメトリックなパターンが彩る独自の技法により、心象風景や美しく情感豊かな世界観の表現を追求している。

林原澄音 Sumine HAYASHIBARA (ヴァイオリン)
 久保田良作、ニコラス・ロス、室内楽を、ヴァイオリニスト、ミッシェル・エルマンの専属伴奏者であったジョセフ・サイガーに師事。ロンドン・トリニティー音楽大学を同大学の奨学金を得て、フェローシップ・ディプロマ(最高位演奏家資格)を取得し卒業後は、マイクロシュ・カルテット、ロンドン・ソロイスツ・アンサンブルのメンバー。帰国後、国内外で演奏活動を行っている。

顧昊倫 Haolun GU (作曲)

1994年11月中国・蘇州市生まれ、高校1年より作曲を学ぶ。2017年上海音楽学院音楽設計と制作科を首席で修了し、2020年東京藝術大学大学院音楽音響創造科修士課程を修了。現在、同大学院博士課程に在籍。作品は、ニューヨーク電子音響音楽祭、国際コンピュータ音楽会議などに取り上げられているほか、アンサンブル・アッカ20周年記念コンサート公募入選、世界各国で演奏されている。これまでに作曲を秦毅、尹明五、陳強斌、西岡龍彦、後藤英の各氏に師事。

水野みか子 Mikako MIZUNO (作曲)
 作曲と音楽学の間で活動。近作はICMC2017、2018、2019、NIME2021、衛武宮台湾国立芸術センター開館記念演奏会、セントラル愛知交響楽団定演、オーケストラ・プロジェクト2020等で上演されている。北京中央音楽学院、台湾国立交通大学、ソルボンヌ大学、ランス地方音楽院、IRCAM等でマスタークラスやワークショップを実施。日本電子音楽協会会長、名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授。

小坂紘未 Hiroimi OSAKA (ピアノ)
 「Sonic Arts Festival(台湾)」、「New York City Electroacoustic Music Festival(アメリカ)」、JSSA音楽祭、ACMP/Media・Project日韓コンピュータ音楽祭に出演など現代音楽の活動を行う。これまでに円光寺雅彦指揮、桐朋学園アカデミー・オーケストラ、角田鋼亮指揮、東京交響楽団と共演。

大谷紀子 Noriko OTANI (AI研究)

1995年東京工業大学大学院理工学研究科情報工学専攻修士課程修了。同年キヤノン(株)入社。同社情報メディア研究所にて情報検索の研究に従事。2000年東京理科大学理工学部経営工学科助手、2002年武蔵工業大学環境情報学部情報メディア学科講師を経て、現在は東京都市大学メディア情報学部情報システム学科教授、博士(情報理工学)。人工知能学会、進化計算学会、情報処理学会、電子情報通信学会、日本AI音楽学会、土木学会、AAAI会員。現在は、進化計算アルゴリズムを自動作曲などに応用する研究に取り組んでいる。

福田貴成 Takanari FUKUTA (聴覚文化論)
 聴覚文化論／表象文化論。東京都立大学人文社会学部准教授。共著に『音と耳から考える――歴史・身体・テクノロジー』(細川周平編、アルテスパブリッシング、2021年)、『クリティカル・ワード メディア論』(門林岳史・増田展大編、フィルムアート社、2021年)、論文に「修羅の音を聴く――『シン・ゴジラ』におけるモノとステレオ」(『ユリイカ』2016年12月臨時増刊号)など。研究活動と並行して音楽レーベルombrophone recordsを主宰、2020年に久保田翠のアルバム『later』(OMBR-0001)をリリース。
 レーベルwebsite：https://www.ombrophone.net

山上揚平 Yohei YAMAKAMI (音楽学・ゲームオーディオ研究)
 2011年、フランス近代音楽学の成立を巡る研究で博士号を取得(東京大学総合文化研究科)。東京藝術大学で音楽美学を、跡見学園女子大学、東京都立大学でビデオゲーム・オーディオ等を講義。関連業績に、論文「Formation et développement des cultures autour de la ‹‹Geemu Ongaku›› (1980-1990)」(Kinephanos N.5, 2015)、共著『〈戦後〉の音楽文化』(戸ノ下達也編著 青弓社 2016)「ゲーム音楽」など。現在は東京大学教養学部附属教養教育高度化機構の特任講師として、アーティストの協力のもとゲームオーディオを含む広義のサウンドデザインを考える実習授業に取り組む。

石井紘美 Hiroimi ISHII (作曲、映像)
 武蔵野音楽大学院修了後、同大学研究員。教職の傍らエクスピションの音楽・音響を手がける。'98年よりドレスデン音楽大学にてW.イェンチに、英国シティア大学にてS.エマーソン、D.スモーリーに師事。同大学より博士号を授与される。ICMC、ガウデアムスなど世界各国で作品が上演され、VideoArtes UNESCO Projectなど委嘱も多い。2006、13―16年ドイツZKM客員芸術家。現在は自身で映像も手がけVisual Music、また3Dアークスマティックと組み合わせた3D音響映像作品の制作に焦点を当てている。

海外ゲスト(ビデオ出演)

ヴィルフリート・イェンチ Wilfried JENTZSCH (作曲、映像)
 ドレスデン、ベルリン、ケルンにて作曲と電子音楽を学ぶ。'76年からパリ・ソルボンヌ大学にてイアニス・クセナキスに師事。'81年博士号取得と同時にIRCAM、CEMAMuにてデジタル音響合成の研究を指揮。1993―2006年ドレスデン音楽大学作曲科教授及び同大電子音楽スタジオ所長。IMEB Bourges、GRMなど委嘱も多い。彼の音響映像作品はZKM、VMM(Boston&NY)、MusicAcoustica、EMUローマ、シネマフェスト・メルボルン、Seeing Sound Bath、KLGなど様々な機会に上演されている。

フランソワ・ドナト François DONATO (作曲)
 1990年にINA-GRM (Institut National Audiovisuel -Groupe de Recherches Musicales) のアシスタント・プロダクション・コーディネーターを務めた後、2005年からトゥールーズを拠点にトゥールーズ大学のSchool of Art and Designでアコースティック・インタラクティブ・テクニクを教え、2017年までSTUDIO Eoleでプロデュースを担当。GRM、Radio France、DAADからの委嘱を受け、主にアークスマティック音楽やパフォーマンス・アートのための音楽をプロデュースする。また、センサー、ビデオ、ライトなどのメディアを統合した音楽制作やプログラミングを展開し、インタラクティブなオーディオビジュアル・インスタレーションの分野でも活躍している。

